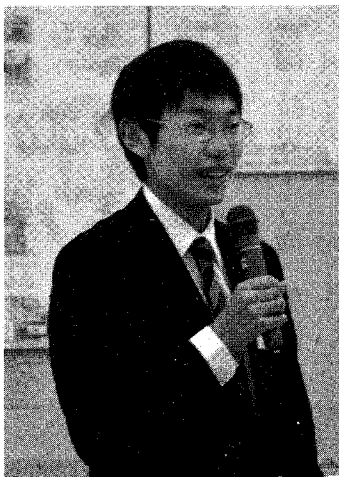


# ■JIA長野県クラブ 学生卒業設計コンクール

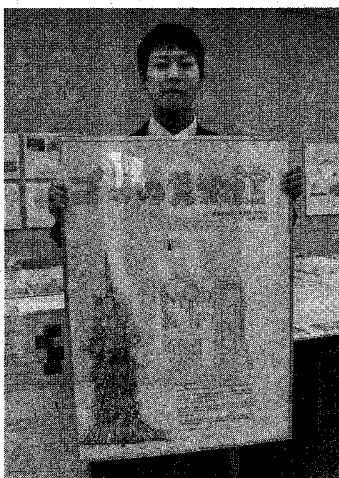
日本建築家協会(JIA)長野県クラブは2月26日、県内で建築を学ぶ学生を対象とする長野県学生卒業設計コンクールを松本市美術館で開いた。設計コンセプトやパース・平面図、模型などにより審査し、大学、専門学校、高校の部門ごとに金・銀・銅・奨励賞を選定。ドーナツ状の屋根が園児の遊び場になっていること有名な「ふじようちえん」などを手掛けた建築家の手塚貴晴氏が審査委員長



大学部門金賞の小山田さん



専門学校部門金賞の滝澤さん



高校部門金賞の宮澤さん

## 手塚氏が学生にエール 「建築は社会を変えることができる」

を務めた。大学部門では、信州大学の小山田優衣さんが金賞に輝いた。小山田さんの作中タイトルは「家族が増える町〜こども食堂からみた住宅地再生〜」。「こども食堂」(子どもがひとりでも安心して食へに行ける無料あるいは低料金の食堂)の課題を見つめ、同施設のある所得のあまりよくない地域に、福祉・農業・文化・学校・商業などの機能を付加、既存施設と新たに加える施設によって、住宅地全体を再生させる建築プランを提案した。

専門学校部門では、上田情報ビジネス専門学校の滝澤来さんがタイトル「芸術社交(アーツ)で豊かな街づくり」で、高校部門では長野県池田工業高校の宮澤大樹さんがタイトル「ゴミ美術館」それは本当にゴミですか?」で金賞を受賞した。

審査委員長の手塚氏は総評で「高校部門はレベルが高く、特に『ゴミ美術館』は絵に力があつた。これからもずっと『ゴミ』を極めてほしい」と話し、宮澤さんが建築の道に進まないことを聞くと「今からでも遅くない。また建築をやるという声を掛けた。また「大学部門の小山田さん

### 大学部門/信大の小山田優衣さんが金賞 専門学校/滝澤来さん 高校/宮澤大樹さん

は、コンセプトを順番に説明しながら、ちゃんと建築に落とし込んでいったのが良かった。(建築プランについては) つくるものと残すものが両方あり、古いものを壊したり変えるのではなく、新たに付け足すことで古いものも良くなっている。外でもない中でもない中間領域ができっており、そのバランス感覚が良かった」と評した。

手塚氏は最後に学生全員に向けて「君たちは人生で必ず大変な時期を迎える。でも自分が今いる立ち位置を『幸運だ』と思っていれば、未来を掴める。自分が選択した今を『不幸だ』とか『ダメだ』とか思う人にその先はない。比較するのではなく、今の自分を最高だと思つて努力してほしい。そうしていれば、建築は必ず君たちにいろいろなものを返してくれる」と語りかけ、「建築は社会を変えることができる。内閣総理大臣は4年に1回選挙しなければならぬが、建築家がものをつくれば、50年あるいは100年にわたり社会を変えることができる。建築家という仕事を選んだことを『幸運だ』と思つてほしい」とメッセージを送った。